

卒隊後の「今」と「これから」



田人地区

カフェ

紺野 琴水さん

2020年11月から2023年3月にかけて田人地区の協力隊として活動。

地域おこし協力隊がつないだ縁

2020年11月に田人地区の地域おこし協力隊として、神奈川県から本市へイターンしてきた紺野琴水さん。卒隊した昨年4月には「一凛の花株式会社」を設立し、古民家カフェ「HITO-TABI」の運営やイベントの企画などを行っています。前職は、航空会社でグランドスタッフとして勤務していました。海外の方と接し、異文化の考え方や価値観に日々触れる中で「ありのままの自分でいられる場所」や「癒しの場所」を作りたいと考えるようになったそうです。

そんなとき、コロナ渦によって、これまでの日常や働き方などが大きく変わり始めた頃、何か新しいことを始めたいと考え、頭の片隅ですっと思い描いていた「癒しの場所」づくり。紺野さんにとって一番心が落ち着く癒しの場所は、大好きな祖母が住む「いわき」でした。その思いと行動を後押しする機会となったのが「地域おこし協力隊」。都会からいわきへ移住する決意を胸に、紺野さんの挑戦が始まりました。

「人の温かさ」に恩返し

前任の協力隊が地域の方と設立した古民家カフェ「HITO-TABI」。その運営に協力隊として携わりながら、経営のあり方やコンセプトを根本から見直した紺野さん。地域の方と協力しながら田人産の食材にこだわり、地域に根差すカフェであるとともに、若い世代の交流人口を増やす取り組みを積極的に進めていきました。こうした地域の方たちとの触れ合いの中で芽生え始めた気持ち。「人の温かさ」にどれだけ助けられたか分からない。そんな地域に恩返しをしたい」その気持ちで、田人町での起業を決心させました。

卒隊した現在は「HITO-TABI」の事業を承継し、昨年11月にはゲストハウスをカフェ内にオープン。地域で雇用を生み出すことが重要と考え、地元雇用を力を入れています。

「家族のように自分を温かく受け入れてくれたこのまちを、これからも大切に守り続けていきたい」と話す紺野さん。

田人町に咲く一凛の花。皆さんもその癒しの場所へぜひ、足を運んでみてはいかがでしょうか。

Information

HITOTABI0515

- ◆住所 田人町黒田唐沢35
- ◆営業時間 11:00~17:00(ランチ~14:30)
- ◆定休日 月曜・火曜



「ただいま」と帰ってこれるようなゲストハウス



5月末までいちごフェア実施中



HITO-TABI直売所では、田人町で採れたお米や野菜なども販売しています。



古民家の魅力に包まれながら、ゆったりと過ごせる「癒しのカフェ」





三戸 大輔さん

2020年6月から2023年3月にかけて
川前地区の協力隊として活動

川前の恵みをクラフトビールに込めて

協力隊任期中は、川前町の耕作放棄地を活用して「二条大麦」と「ホップ」を地域の方々と協力しながら栽培・収穫し、川前産クラフトビール「いわき乾杯！KAWAMALE」(カワマール)の試作品2種類を完成させました。

2023年3月に卒業した現在は、これまでの活動で培った地域との深い絆、そして豊かな自然を生かし、念願だった「サンディーブルワリー」を川前町下桶売地区に開業しました。また、このブルワリーには、ゲストハウスも併設する予定だそうです。

三戸さんが愛する川前の「恵み」と「人」。そのまっすぐな思いを自身の醸造技術と感性によって磨き上げ、完成される唯一無二のクラフトビール。今年、2月に第3弾目が完成し、3月に川前町や市内の飲食店で開催される完成お披露目会にてその味を楽しむことができます。

夢を仕事にできる幸せ、その夢が地域と人、そして未来をつないでいきます。「ビールと一緒に川前の魅力を思い切り楽しんでもらいたい」と語る三戸さんの夢と挑戦はさらに広がっています。

地域おこし協力隊は夢との懸け橋

2020年6月に川前地区の地域おこし協力隊として、広島県から本市へUターンしてきた三戸大輔さん。世界を旅する中でクラフトビールの味や作る楽しさに魅了され「いつか自身のブルワリー(醸造所)を開業させたい。そして、世界に一つのクラフトビールを生み出し、多くの人に魅力を広めたい」と夢が芽生えた三戸さん。その夢を実現させるため、ドイツでクラフトビール作りの修業を積んできました。

日本に戻り、ブルワリー造りの修業をしていた時、地域おこし協力隊のOBと出会い、その取り組みに感化され、自身もクラフトビール作りで地元を盛り上げるための活動に貢献できないかと考え、川前地区の地域おこし協力隊に応募しました。川前地区は約50年ほど前まで、ビールメーカー向けの原料となるホップや大麦を育てていた歴史があり、三戸さんが思い描くクラフトビール作りには最適な土地でした。地域おこし協力隊として、自身の夢、そして地域の活性化を実現するための挑戦が始まりました。



地域の皆さんとビールの原料となる「ホップ」を収穫している様子。



ブルワリーの様子。現在は、タンクなど各設備の設置作業に取りかかっています。



「KAWAMALE (カワマール)」試作品の第1弾(上写真)と第2弾(右写真)

Information



SANDI BREWERY

住所：川前町下桶売字敷ノ上130



SANDBREWERY

江名をデザインする

地域おこし協力隊 (江名地区)

のむら しえな
野村 史絵波

漁業で栄えたまち「江名」。ここには、当時の漁具、船具、写真などの漁業資料が残されていましたが、東日本大震災の津波により多くが被災を受け、十分な保管環境が確保できずに風化が進んでいました。江名地区の誇りである貴重な歴史と文化を後世につないでいくため、バラバラになった漁具の整理・記録をし、展示するための「資料館」づくりに取り組んでいます。

その活動は、まさに「漁具の大掃除」。気の遠くなるような小ささまざまな文化的価値が高い漁具などを収集し、一つ一つ丁寧に分類しています。毎月2回程度の活動ですが、地域の方の協力はもちろん、多くのボランティアの方々が参加されています。



このほかにも港町の美しい風景やマリンアクティビティを活用したブルーツーリズム事業と地域イベントへの企画・編集なども行っています。

地域の歴史と文化の継承、その魅力を生かして新たなにぎわいを生み出し、さらに好循環させていく。その原動力である「ひと」と「まち」をつなぐためのデザインが始まっています。



地域おこし協力隊募集中

地域おこし協力隊は、地域におけるさまざまな活動を展開し、多種多様なプロジェクトを通じて、地域はもちろん、自身の可能性を広げるやりがいの大きい仕事です。

UIJ ターンなどを検討している方、いわき市に興味がある方、ぜひ「地域おこし協力隊」として、新しい物語をこの地で始めませんか？



▲詳しくは、こちら

方々にお話しさせてもらいました。そこからは結構変わったと思いますね。原料の栽培や収穫もたくさんの方に協力してもらえようになったり、ブルワリーの物件探りで困っていた時も青年会の方に今の物件を紹介してもらった。本当に地域の皆さんに支えられながらここまで来れました。



三戸さん…とにかく感謝です。今だってお店の扉をガラガラって開けて「琴水ちゃん！」って来てくれるのがとても嬉しいです。都会に住んでたらこんなことあり得ないし、そういう人と人とのつながり自体に価値があるって感動的なものですし、もっと多くの人に体験してもらいたいと思います。



三戸 大輔さん
元川前地区
地域おこし協力隊

野村 史絵波さん
現江名地区
地域おこし協力隊

紺野 琴水さん
元田人地区
地域おこし協力隊

元隊員と現役隊員によるクロストーク

このまちで見つけた大切なもの。

本市ではこれまで、22人の地域おこし協力隊を任命し、卒業後も本市に定住・定着している方は10人います。また、5人が現役隊員として今も地域で活動しています。隊員がそれぞれの地域で見つけた大切なもの。今回は、江名地区の現役隊員と元隊員との対談を通して協力隊の魅力をお届けします。

協力隊としてのスタート

紺野さん…神奈川に住んでいたの、生活は一変しました。それでも慣れていくしかないし、他の人が見たら、もしかしたらマイナスに思えることも自分でプラスに変えて楽しんでるっていう風にしていたら、地域の方も優しく迎え入れてくれて、今では本場の孫のように、軽トラで会ったら「ようー！みたいな。こうしたコミュニティケーション一つにしても、なんか家族の一員になれたような感動があった、協力隊での3年間の思い出というか、培ってきたものかなって思います。

野村さん…江名では協力隊が来るのが初めてということもあり、最初はまず、顔を覚えてもらうところから始めました。よく公民館を利用してくれるおばあちゃんたちに「頑張ってるね」って声をかけてもらえるのがすごく嬉しいです。私の得意分野がデザインなので、それを生かして地域活性化ができれば

などと思います。とはいえ、広報紙を作るとかまだ出ていないので、そういうことをちょっとずつやっていったりして、地域の人たちにどんどん知って欲しいなって思いますね。



三戸さん…ビール作りへの焦りと初めての協力隊の仕事。このバランス取りに苦戦しました。3カ月経過したあたりから自分が将来やりたいこと、そのために今やるべきことの軸をしっかりと持てるようになりました。焦ってもしょうがないですし、一歩ずつ丁寧に地域で活動していくことが、結果として良かったなと感じています。



「地域」とのつながり

三戸さん…自分の夢である川前でのビール作り。それが「本気」で「真剣」であることを、とにかく地域の

卒業した今「地域」への思い

三戸さん…とにかく感謝です。今だってお店の扉をガラガラって開けて「琴水ちゃん！」って来てくれるのがとても嬉しいです。都会に住んでたらこんなことあり得ないし、そういう人と人とのつながり自体に価値があるって感動的なものですし、もっと多くの人に体験してもらいたいと思います。